

# 県央基幹病院整備基本計画のポイント

## 基幹病院整備の基本的な考え方

### 基幹病院の基本的な考え方

#### 【基幹病院が担う基本的な役割】

- ① 地域に必要な中核としての役割（救命救急医療、高度・専門的医療）
- ② 地域医療支援等の拠点としての役割（地域医療の支援、医療スタッフの育成等）

#### 【基幹病院の基本方針】

- ① 救命救急医療を提供する地域の基幹的な病院
  - ・救命救急医療、高度・専門的医療等
- ② 地域医療と医療連携を推進する病院
  - ・地域医療連携、地域医療支援機能、医師派遣機能等
- ③ 医療スタッフの集まる魅力ある病院（マグネットホスピタル）
  - ・地域一体となった臨床研修プログラム等
- ④ 高齢社会に対応した病院
  - ・急性期リハビリテーション、在宅医療の後方支援等
- ⑤ 地域に貢献する病院
  - ・医工連携の推進、まちづくりへの貢献

### 基幹病院の整備・運営

#### 【病院再編と基幹病院の整備】

- 燕労災病院と厚生連三条総合病院を再編対象病院として、基幹病院を整備し、再編対象病院の医療機能は基本的に引き継ぎ、さらに発展させる。
- 労働者健康安全機構から燕労災病院の早期移譲を受け、基幹病院の円滑な整備に向け準備を進める。

#### 【整備スケジュール】

- 新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院の例等を踏まえ、下記のスケジュールを前提として、平成34年度中の竣工、平成35年度早期の開院を目標とする。（スケジュール）

平成28～30年度	基本設計、実施設計、用地取得
平成31年度	用地造成、建築工事発注手続
平成32～34年度	建築工事
- ただし、建設地及び周辺では独自の開発の動きもあることから、開発計画の内容や同計画に伴う各種法的手続等の進捗によっては、上記整備スケジュールに影響が生じることも考えられる。  
こうした状況が予想される場合は、開発計画とは別に、上記のスケジュールを基本に病院整備を進めることとする。

### 【運営方法・運営主体】

- 県が基幹病院を整備し、指定管理者に運営を委ねる公設民営方式とする。
- 運営主体は、県の一定の関与が可能な財団法人等を基本に検討する。

## 基幹病院の機能

### ① 救命救急医療及び高度・専門的医療の中核的機能

- 救命救急センター（ER型救急医療）として、高度・専門的な医療機能を整備する。  
（地域がん診療病院、心疾患医療・脳疾患医療の確保、外傷センター的機能、急性期リハビリの充実）
- 圏域の他の医療機関と役割分担・連携を図りながら、必要な診療機能の確保を図る。  
（低出生体重児の出産等に一定程度対応できる産婦人科医療、人工透析医療の確保、精神疾患患者の身体合併症へ対応）

### ② 地域医療支援の拠点的功能

- 地域医療を行う医療機関に対する支援機能を担う地域医療支援病院を目指す。
- 既存病院の専門外来等の支援や医師派遣システムの構築を目指す。
- 地域医療連携ネットワークなどの地域での診療情報等の共有化の仕組みづくりに取り組む。
- 精密検査、疾病予防、在宅医療に関する後方支援機能を担う。

### ③ 人材の育成・教育機能

- 研修医・専門医の確保・育成（基幹病院を核とする既存病院の特色を活かした臨床研修病院群の形成、地域の医療機関と連携した医師の育成）
- 看護職員・コメディカルスタッフのキャリア形成支援（新潟大学、魚沼基幹病院との教育・研修の連携、パートナーシップ・ナーシングシステム）
- 地域医療人材の育成（地元養成校との連携、薬科系大学との連携）

### ④ 災害時医療の拠点的功能

- 地域災害拠点病院として、災害時医療の拠点的功能を担う。

## 基幹病院の施設規模等

### 【診療科】

以下の22科程度を基本に検討する。※他の救命救急センター設置病院を参考

内科（循環器、消化器、呼吸器、内分泌・代謝、腎・膠原病）、神経内科、精神科、小児科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科（診断・治療）、救急科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、総合診療科

※総合診療科（院内標榜）も診療科数に含んでいる。

※内科等の診療科目については、今後さらに検討していく。

### 【病床数等】

- 病床数 450床（一般病床446床、感染症病床4床）  
※うち救命救急センター20床
- 建物面積 33,000㎡程度
- 建設地 三条市上須頃地内
- 用地面積 43,000㎡程度（うち緑地及び調整池9,000㎡程度）

## 医師・看護職員等の確保対策

### 【医師の確保対策】

- 必要となる医師数：中長期的には75～90名程度
- 基幹病院を核とする既存病院の特色を活かした臨床研修病院群の形成、地元産業の特色を活かした研究機能（医工連携）、臨床研究（治験）機能、修学資金貸与医師の配置、新潟大学との連携、県外からの医師確保 等

### 【看護職員等の確保対策】

- 必要となる看護職員数：中長期的には410～430名程度
- 認定資格の取得支援などのキャリア形成支援、パートナーシップ・ナーシングシステム、院内保育所など子育て等に配慮した働きやすい勤務環境の整備 等